

御嶽山とは

御嶽山は我が国第 14 位の高峰であり、その根張りは東西 30 数kmにも及び、ひとつの山としては日本で最大の山塊である。北アルプスから一步離れた独立峰として天空に向かって悠然とそびえ、長い裾野をなびかせている。麓から眺めるその美しい姿は、四季のうつろいをもって見る者の心を魅了する。「木曾のおんたけさん」と呼ばれ親しまれており、麓に生活する人々との深い関わりの中で、多くの歴史を刻んできた尊さがある山である。

御嶽山を知る上で重要なことのひとつに、古い歴史を持つ山岳信仰がある。いたるところに存在する御嶽教のモニュメントが、そのことを如実に物語っている。

いまだに夏の最盛期には、白装束の御嶽教信者が金剛杖を持って、夜を徹して登る姿を見ることができる。



飛騨山脈の最南端に位置する御嶽山は、巨大な山を持つ活火山である。その面積は 900 平方kmを超えともいわれ、膨大なものである。

山頂部は東西 1 km、南北には 4 kmにも及び、長い頂稜となっている。北西から眺める姿が日和田富士と呼ばれるように、この山容は見事な三角錐である。

東面の開田高原から眺める姿は広い台形を成し、山頂部の広さを見せつける。その広い山頂部には頂上剣ヶ峰をはじめ、摩利支天山、継母岳、継子岳の四つの峰と五つの火山湖、一つの火口原が存在する。

王滝口とは

王滝村は、木曾の中でも最も山深い場所にある。ここに開かれている王滝口は、三岳の黒沢口とともに、御嶽信仰の古い歴史を持つ。

登山口のある田の原までの車道沿いには、多くの霊場や御嶽講信者の為の宿がある。「御嶽山は滝の山である」と言われるほど、御嶽山を源とする河川には滝が多い。地形が急峻で高低差が大きいこと、独立峰で山体が大きいこと、降水量が多いこと、豊かな森林を育てて水が涸れることがないことなどがその成因となっている。

人が近づきにくいところにあるものが多いが、黒沢口から油木尾根の遊歩道沿いにある百間滝（西野川の支流の南俣川）、開田高原の尾ノ島滝、王滝口の滝・清滝、濁河温泉付近の仙人滝・緋の滝、日本の滝百選に選ばれた根尾の滝など、比較的簡単に目にすることができる滝もいくつかある。新滝と清滝は御嶽教の行場で、新滝には洞窟がありここに籠って断食を行い滝に打たれる行場となっている。冬に新滝（落差約 30 m）と清滝は氷柱となる。

黒沢口四合目の霊神場周辺には、日ノ出滝、明栄滝、大祓滝、松尾滝などがあり不動明王などの神霊が祀られた行場となっている。



木曾御嶽山事故報告書

- ◆事故発生日：平成 26 年 4 月 6 日（日）
- ◆場 所：木曾御嶽山（長野県）3067m（P1 御嶽山とは）
- ◆コ ー ス：田の原登山口～王滝頂上小屋～剣ヶ峰
- ◆メンバ ー：CL WH（52 歳）・SL OM（47 歳）・MA（会員外）
- ◆天 候：12 時頃まで快晴、その後視界不良（P19～木曾福島の天気図）積雪あり
- ◆状 況：P14～遭難救助活動流れを参照のこと
- ◆遭 難 者：CL WH P22～ 山行実績を添付
- ◆遭 難 場 所：王滝頂上小屋にてメンバーと別れ、単独にて剣ヶ峰を目指しその後行方不明
- ◆遭 難 時 天 候：12 時より視界不良で、王滝頂上で別れた時はかろうじて山頂までのコースが見える程度
- ◆遭 難 事 故 通 報：15 時 45 分
（生存者の救助活動協力者：N 氏・O 氏（スキーヤー）が 119・110 番通報を行い、遭難者への連絡も行った）
- ◆会への連絡：15 時 48 分（会不在により事故一報の通話時刻 17 時 18 分）
- ◆同行者から警察への通報時刻：17 時 18 分
- ◆遭難者と警察との最終通話時刻：17 時 15 分
- ◆事故発生予想時刻：17 時 15 分以降
- ◆捜索期間：平成 26 年 4 月 7 日 6 時 30 分より、4 月 8 日、9 日の各日とも快晴
- ◆捜 索 範 囲：P18 捜索範囲を参照のこと
- ◆人 員：長野県警 1 名、遭対協・王滝班 4 名・福島班 3 名、県警と防災用ヘリコプター
- ◆発 見 日 時：平成 26 年 4 月 9 日（水）10 時 10 分頃
- ◆発 見 場 所：覚明堂小屋下 150m 付近（長野県警発表）（調査の結果 2730m 付近）
- ◆発見時の状況：死亡
- ◆死亡推定時刻：不明
- ◆死 亡 原 因：内因死（家族の希望により解剖はしていない）
- ◆概 要：CL WH、SL OM、MA（会員外）は 4 月 6 日朝より剣ヶ峰の山頂を目指し、田ノ原登山口より歩き出した。王滝頂上小屋への到着は 12 時 40 分頃。計画書の予定を 40 分オーバーしての到着となった。13 時 30 分までに山頂へ到着しなければ下山しようと事前に打ち合わせをしていたことと、ここからなら往復 1 時間程度であるから下山が若干遅れても大丈夫だと 3 人の判断があり、WH は 2 人に「ここまで来たんだから行こう！」と幾度となく誘う。だが同行した OM と MA は疲れた為、王滝頂上小屋にて登頂を断念する。

OM・MA を残して WH は単独で剣ヶ峰まで出発。

WH にとっては初めてのルートであったので、OM に山頂までのルートを幾度か尋ねて出発する。

この時はまだ山頂を望むことができる程度の霧であり、ルートは鮮明に見えていた。

残った 2 人は風の遮れる場所にてビバーク態勢を取り始める。

13 時 30 分頃には視界は 10m～15m 程度となり、OM は寒さによる震えが出始め防寒着を着込み WH の下山を待った。

王滝頂上小屋に到着した際の出発前に居合わせたスキーヤーの N 氏・O 氏が山頂から下山してきた際、ツェルトに居る OM・MA に声を掛けてくれた。会話からこの 2 人が「遭難」と判断し 110 番へ通報。

山頂は既に吹雪となっており、完全ホワイトアウトの最悪の状態であった。二次被害を防ぐ為、スキーヤーの N 氏はスキー場のパトロール隊に連絡、O 氏は OM・MA に付き添って下山をし、ゴンドラ乗り場にて救助要請を行った。

救助要請するまでの数回、WH とスキーヤー、および WH と警察の間で携帯電話で通話ができしたが、WH の居る場所の特定は困難であった。既に 17 時を過ぎており、悪天候と日没間近ということから当日の搜索活動はできず。その日は遭難対策協議会にて、救助隊の編成のみに留まった。

翌日 4 月 7 日早朝より救助隊の地上搜索と県警ヘリによる上空からの搜索が開始されるも見つからず。4 月 8 日のヘリによる搜索も空振り。搜索 3 日目の 4 月 9 日 10 時 10 分、県警の最終飛行にて覚明堂下に人影を発見し、確認作業の結果、WH の遺体と判明した。

◆**死亡原因**：検視の結果は、低体温症や外傷の所見は無く、頭部にも異常が認められないことから内因死（いわゆる病死。首から下の循環器系で、おそらく心臓系ではないかと思われる）ということであった。

2 人を残してきてしまって早く戻らなければという気持ちから、視界不良により足元しか分からない中で、道に迷っていると自覚しつつも進む方向が分からないという不安が極限のストレスとなったのではないだろうか。また寝不足や疲労が重なると心臓等に大きく負担が掛かってしまうという検視官の話もあった。

小屋付近に居たのだから、一晚耐えられる技術と体力があれば、視界不良で動けなくなってもビバークをして命を落とすことは無かったであろう。

◆**要因**：今回のパーティーは前日 4 月 5 日に金峰山（長野県）への山行を行っており、その足で御嶽山まで片道 150 km の距離を移動、尚且つ車中泊ということから疲労蓄積と睡眠不足があったと思われる。

地図はゴンドラに乗る際に乗車口で貰った観光マップしか持参しておらず、コンパスの使い方に

も不慣れで金峰山でも数度道迷いをしている。この遭難でも「南東の方角へ向かってください。」という呼びかけに「南東はどちらの方角ですか？」と尋ねるなど、コンパスを持っていても決して正しい方向を決めることができなかつたと推測される。視界不良時にあえて前進するのであれば、如何なる場合でも、地形図で現在地を確認しコンパスにて進むべき方向を定めなければならないが、少し視界が開けているから良いという意識のもと、不十分な装備と技術のまま進んでしまったと思われる。

WH はピークハントを目的としており、OM・MA を残して単独で山頂を目指すなど、CL としての資質が欠けていたと言わざるを得ない。尚且つ、日頃からコンパスを使って自身の歩く方角を特定できていないなどが重なり最悪の結果を招いてしまった。

また、WH と MA は初対面、OM と MA は過去に 1~2 度程度の山行を共にしているだけで、今回は 1 年ぶりの再会である。そのような中で二人は CL WH へ遠慮してタイムオーバーの件や下山したい旨を強く言うことができなかつた。

さらに OM は WH の登頂に対するこだわり（前は金剛童子で敗退）を知っているため、多少視界が悪くても往復くらいならば大丈夫だろうという気軽な発言をしており、即席パーティーゆえの結果となってしまった。

◆事故検証：事故に至るまでの検証を行う

1. 計画

- 1.1 前日 4/5 に金峰山山行。4/4 夜も十分な睡眠がとれていない？
- 1.2 夜に移動(150Km)して車中泊。本人は運転席で仮眠？
- 1.3 自身の体力についての過信。同行者の体調・体力の判断不足はなかつたか？
- 1.4 本人は御嶽山 2 度目。ひと月前 3/8 に金剛童子で敗退した山行のリベンジで意欲

2. 天候

- 2.1 当日の天気は、午後から荒れる予報
- 2.2 しかし当日は天気予報をチェックしていない
- 2.3 出発時の天気は快晴
- 2.4 王滝頂上山荘では出発時にガス発生。直にホワイトアウト

3. コース

- 3.1 田の原からの往復。御嶽山冬コースとしては一般的日帰りコース
- 3.2 視界が利けば、特に危険な場所はなし
- 3.3 ただし標高 2500m 以上は森林限界を超え、ガスにまかれると位置の同定が困難

4. メンバー

- 4.1 3 人パーティー(WH、OM、MA)

- 4.2 WH と OM は三島労山会員
- 4.3 OM と MA は SNS 仲間？ 一緒の山行は 1 年前に 1 回だけ。登山時期や山名は？
- 4.4 WH と MA は今回が初顔合わせ？
- 4.5 即席混成 P で難易度の高い冬山へ行くことのリスク認識

5. メンバーと別れるまでの行動

- 5.1 最初は MA、OM、WH の隊列。体力のある WH は最後尾でメンバーに合わせた歩き
- 5.2 OM、MA は王滝頂上山荘で疲労（時間切れ）により登山中止
- 5.2 WH はメンバーを待たせて単独登山継続。リーダーとシパーティアーを分割するのは問題
- 5.2 冬山単独行動に対する慎重さが足りない

6. 登山技量

- 6.1 冬山基本装備は持参、使える。
- 6.2 ホームグラウンドの八ヶ岳は歩ける。赤岳は登山コースの同定はやさしい
- 6.2 コンパスは持っているが有効に使えていない。金峰山でも道迷い。
- 6.3 そもそも地形図を持っていない。観光マップのみ。致命的ミス
- 6.4 GPS は所有せず
- 6.5 MA の感想：WH の技量に不安感

7. メンバーと別れた後の WH の行動

- 7.1 視界が利かなくなり、小屋脇で待機の連絡（どの小屋かは不明）
- 7.2 その後トタン屋根の小屋脇に居る連絡。前と同じ小屋のことかは不明。
- 7.3 結果的には黒沢口登山道側の覚明堂だった。
- 7.4 山頂からの方角は田の原から 90 度もずれている。そもそも山頂に到達できなかった？

8. 待機していた OM、MA の行動

- 8.1 WH と別れて待機。直にホワイトアウト
- 8.2 OM は低体温症の兆候を感じ衣類を重ね着。王滝頂上から 3 人ですぐに下山していれば、体の冷えもなかったはず
- 8.3 WH を待つ間、社務所内にツェルトを張り待機。天候回復を待つ
- 8.4 WH と電話は通じなかったものの、WH を待つ気持ちの余裕がなくなっている
- 8.5 自力下山できず、通りかかったスキーヤー 2 名に救助要請
- 8.6 救助されて結果的には良かったが、一晚耐える体力や技術、装備はあったのか？
- 8.7 連れて行ってもらうという依頼心、あるいは進むことに不安を覚えながら断れない遠慮がなかったか？

◆調査：上記事故検証を元に、4 月 26 日・27 日に春山合宿として「慰霊と調査」を目的とし入山した。限られた時間の中での調査となり、まだまだ不十分ではあるが、紛失物（ピッケ

ル・アイゼン片方・携帯電話・デジタルカメラ)がある為、雪解けを待ち、再度の調査を行う予定とする。調査内容は以下の通りである。

◇報告者：2014/05/07 TS、NH

2014/4/26 (土)～27 (日)にかけて WH さん遭難事故の現地確認に行っていましたので報告します。

1. 概要

発生内容の詳細は別紙の通り。この文書では 4/27 の王滝頂上小屋から上の報告。

2. 行動と地形図とログ

WH がどのように行動したかを確認するため、隊は①山頂まで行って尾根沿いに降りる②王滝頂上小屋の上のまごころの塔からトラバース道に進む、のどのよう行動したか2隊に分かれて確認した。

①王滝頂上小屋→1.剣ヶ峰→2.大沢十字路へ尾根沿いに移動→3.十字路から覚明堂

②王滝頂上小屋 (荷物デポ) →剣ヶ峰→王滝頂上小屋 (荷物ピックアップ) →1.まごころの塔→2.トラバース道を使って大沢十字路上部で尾根に合流→3.十字路から覚明堂

③覚明堂から発見地点まで

上記、番号がついていない部分については共通で。あとはそれぞれについて報告する。

3. それぞれのルートの感想

①②共通 王滝頂上小屋から剣ヶ峰まで。

王滝頂上小屋からはまごころの塔が見えれば、ロープが確認でき、そこから広いながらも上に登っていけば間違いなく山頂には着けそうに感じた。



写真1 まごころの塔から左に曲がると山頂に向かって行く。

①-1. 剣ヶ峰～大沢十字路

まず、剣ヶ峰から大沢十字路に向かう道はわかりにくかった。山頂の広場から手すりだけ見えている雪で埋まった階段を降りて、本来なら少し右に曲がらなければいけないのを、左に曲がってしまったように見えた。

左に曲がったとしても、少しわかりにくい道で、ロープは見えただが緑のロープで来た時と違う。埋もれていたらわからないでしょう。また、遠くに福仙菩薩が見えると、それがまごころの塔に見えたかもしれない。距離感は同じように感じた。

しかし、見えていればまごころの塔ではないことはすぐに分かる。ガスで見えていなかった可能性はある。



写真2 山頂の航空写真（Yahoo 地図）大沢十字路へ行くためのルート



図1 山頂での GPS ログ (武さん)

① -2. 剣ヶ峰から大沢十字路へ

この尾根で、ガスで見えなくなったらコンパスや GPS が無いともう動けないと思う。それぐらい広い尾根である。

① -3. 大沢十字路から覚明堂

雪が柔らかかったのでエッジで雪を踏み込めば問題なかったが、かなり急斜面である。当日凍っていたとしたら、普通の登山者では下れないだろう。

① -1. 剣ヶ峰からまごころの塔への下り

登路を忠実に下ればまごころの塔までは直線のルートであり、ガスが出てもコンパスを使えば問題なく下りられる道である。また西からの風に流されて方角が東寄りにずれたとしても、その場合は王滝頂上東側の谷筋に入り込むことになる。以上の点から、登頂後にこの辺りまで下山してからコースを誤った可能性は極めて低いと考えられる。

① -2. まごころの塔から大沢十字路上部合流地点まで

王滝頂上から剣ヶ峰へ向けては、まごころの塔手前で約 45 度左に進路が変わるが、ここを直進するとトラバース道に入る。トラバース道沿いにも夏道の杭とロープがあり、検証時には見えていたが、事故当時の積雪量によっては隠れていたかもしれない。しかしながらこの杭とロープもすぐに無くなり、そのあとはどこでも歩ける雪原となる。地図上のト

ラバース道は高度差 30m ほど斜登行した後に崖状地形の上部を迂回するように水平にトラバースするが、検証時には斜登行を継続して大沢十字路上部で尾根道と合流した。それでも頂上を目指す最大斜度とは明らかに違うと判るルートであり、ガスにまかれたとしても、このルートを歩き続けることはないと思われる。

② -3. 大沢十字路上部合流地点から覚明堂

尾根上で山頂から大沢十字路への道と交差した後に、そのまま進路を変えず北東に直進した場合、二ノ池の窪地に向かって急激に高度を落とすことになる。仮にここまでの道を山頂へ向かうコースと誤認していたとしても、ここで間違いに気が付き上に向かって進路を変えるだろ。



図2 剣ヶ峰からまごころの塔に戻りトラバース道を進む (NHGPS ログ)

③ 覚明堂から発見地点まで

27日は雪が緩んでいたため、ロープなしでも登り降りでき、斜度は30度弱。アイスバーンだと登り降りは厳しい。

発見地点は特に何もない斜面。若干なだらかになっていると感じたが、滑落が停止するほどのものではない。

少し低くなっており、登山道からは見えない場所であった。

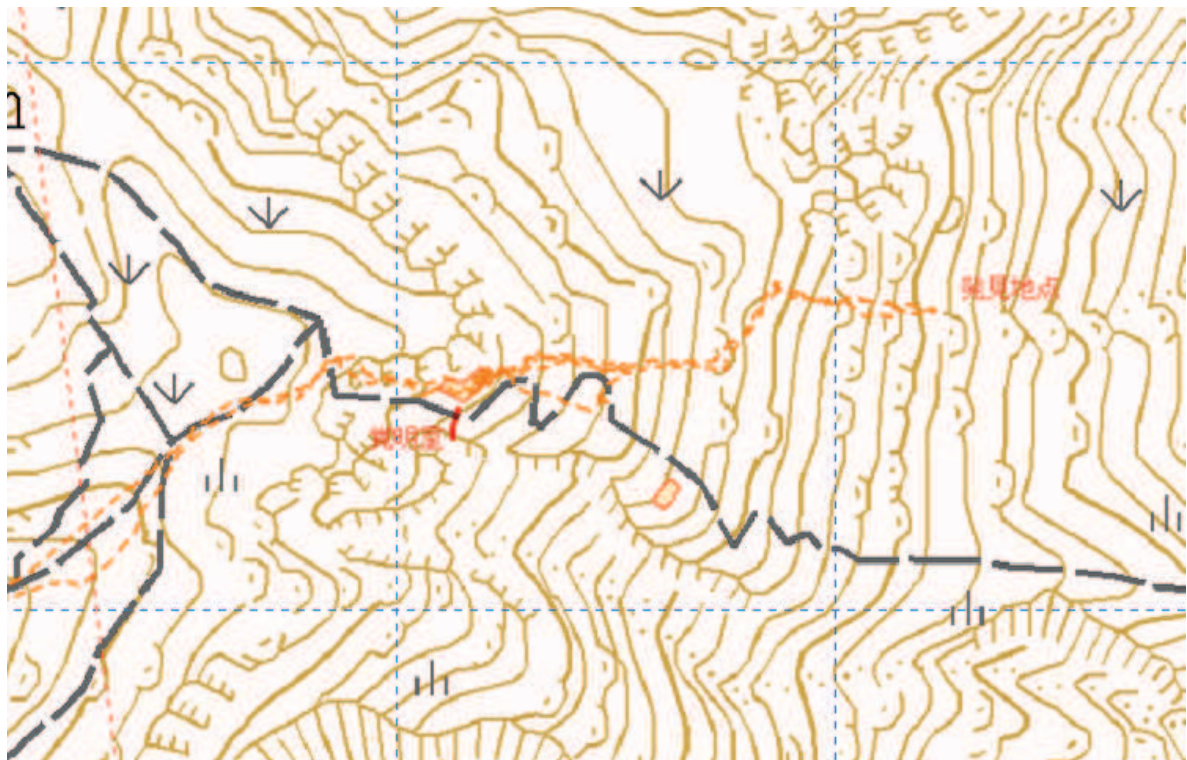


図3 覚明堂と発見地点



写真3 覚明堂から発見地点と思われるところをみる。写真中心に見えるのは石室山荘



写真4 石室山荘の左岸側 50m、高度+20m離れたところから発見地点と思われる場所の写真。
上からは見えない



写真5 発見地点から上を見た。少々、沢状になっている



写真6 発見地点より下を見た。斜度は変わらず。右上の建物が金剛堂。それに続いている右上部からくる道が登山道。倒れていると向こうからはこちらは見えないと思われる。

◆**今後の会の動き**：この事故を機に山行計画書の見直し、遭難対策マニュアルの整備、実地及び机上による講習の見直しを行い、会員全ての意識と登山基本の資質を向上させることとする。なお、今まで基金への加入を推進してきたが、搜索活動費用の家族への負担を少しでも減らすべく、基金への加入を強制とすることとする。

◆**最後**に：今回の事故は、無雪期なら踏み跡が明確でも、積雪期には自分自身でルートを切り開いて進まなくてはならないバリエーションルートに安易に足を踏み入れてしまい道迷いしたものである。視界不良においてもコンパスである程度の方向を決めることができ、地図により大まかでも現在地を把握することができれば道迷いは防げたはずだ。

地図で現在地を確認することは登山の基本であり、位置情報を含め地図が与えてくれるさまざまな情報を分析する読図の技術が不十分であったと思われる。

GPS が安価で購入できる現在では、GPS で正確に現在位置を知ることができるが、果たしてそれだけで良いのだろうか？また携帯電話による GPS マップで位置情報が分かるが、それは、読図ができる人が使うものであり、まず地図とコンパスによる正確な位置情報を読み取る能力を養ってから次のステップに踏み出す様にして欲しい。

また、GPS 機能がついた携帯電話を使って 110 番・119 番に発信すると誤差数メートルで発信者の場所が特定できる。ところが今回遭難者は 110 番ではなく管轄する警察署へ直接電話したため居場所が特定できなかった。110 番してくれていればと悔やまれてならない。



↑★4月7日
遭対協の搜索範囲

地上班・上空班／田の原登山口～剣ヶ峰山頂～黒沢十字路～覚明堂～石室山荘～女人堂～七合目行場山荘

★4月8日

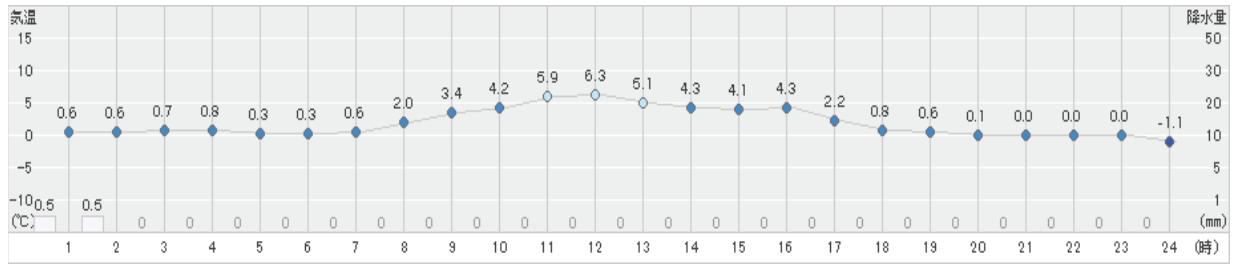
上空班／防災ヘリ／剣ヶ峰～白川～女蝶の滝・・・地上班／濁り河温泉登山口～のぞき岩避難小屋

★4月9日

上空班／県警ヘリ／剣ヶ峰～三ノ池、二ノ池小屋～黒沢口～避難小屋はヘリから降りて搜索～覚明堂～（発見）～ヘリから降りて確認～（荷物ピックアップ）～（給油の為松本空港へ戻る）～収容

木曾福島(キソフクシマ)のアメダス(2014年04月06日)

2014年04月06日



記録(2014年04月06日)

2014年04月06日

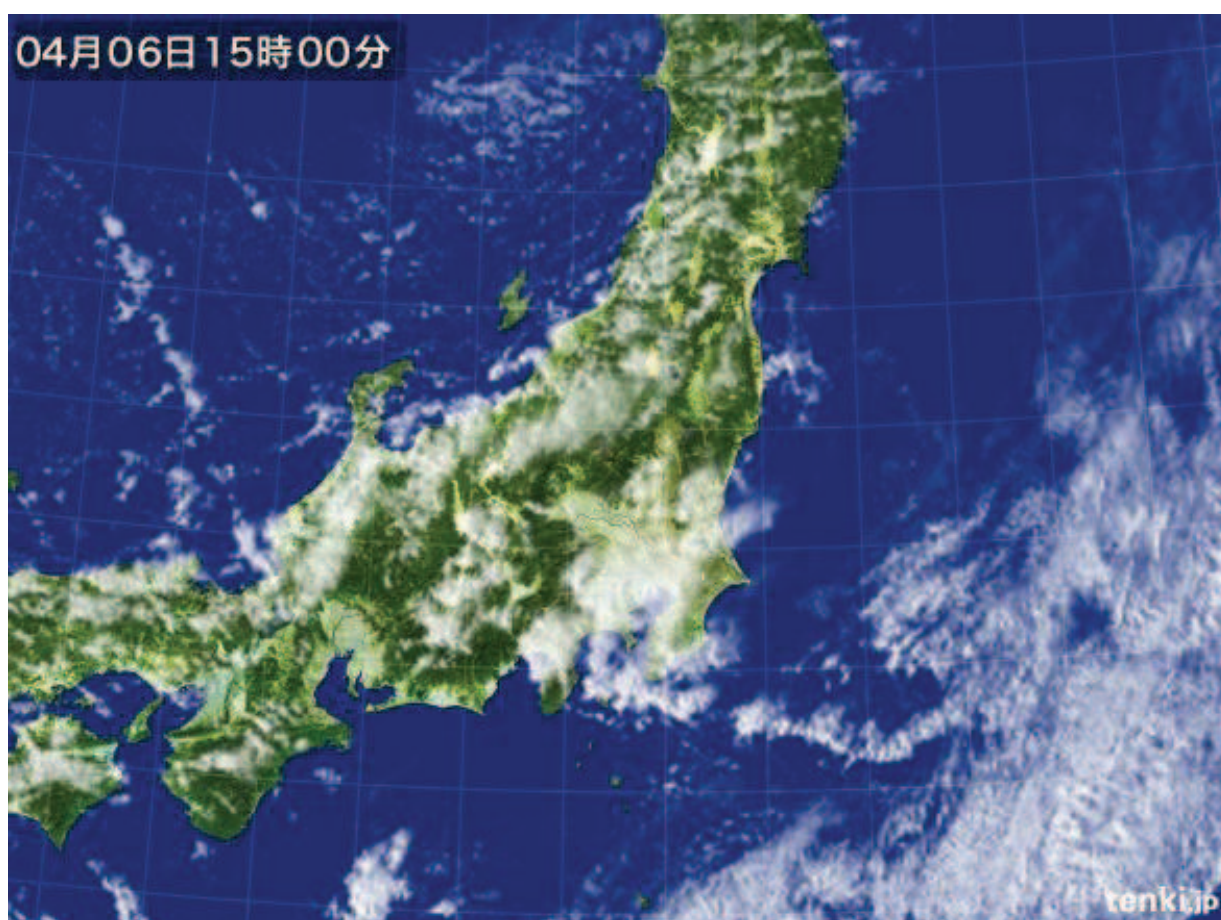
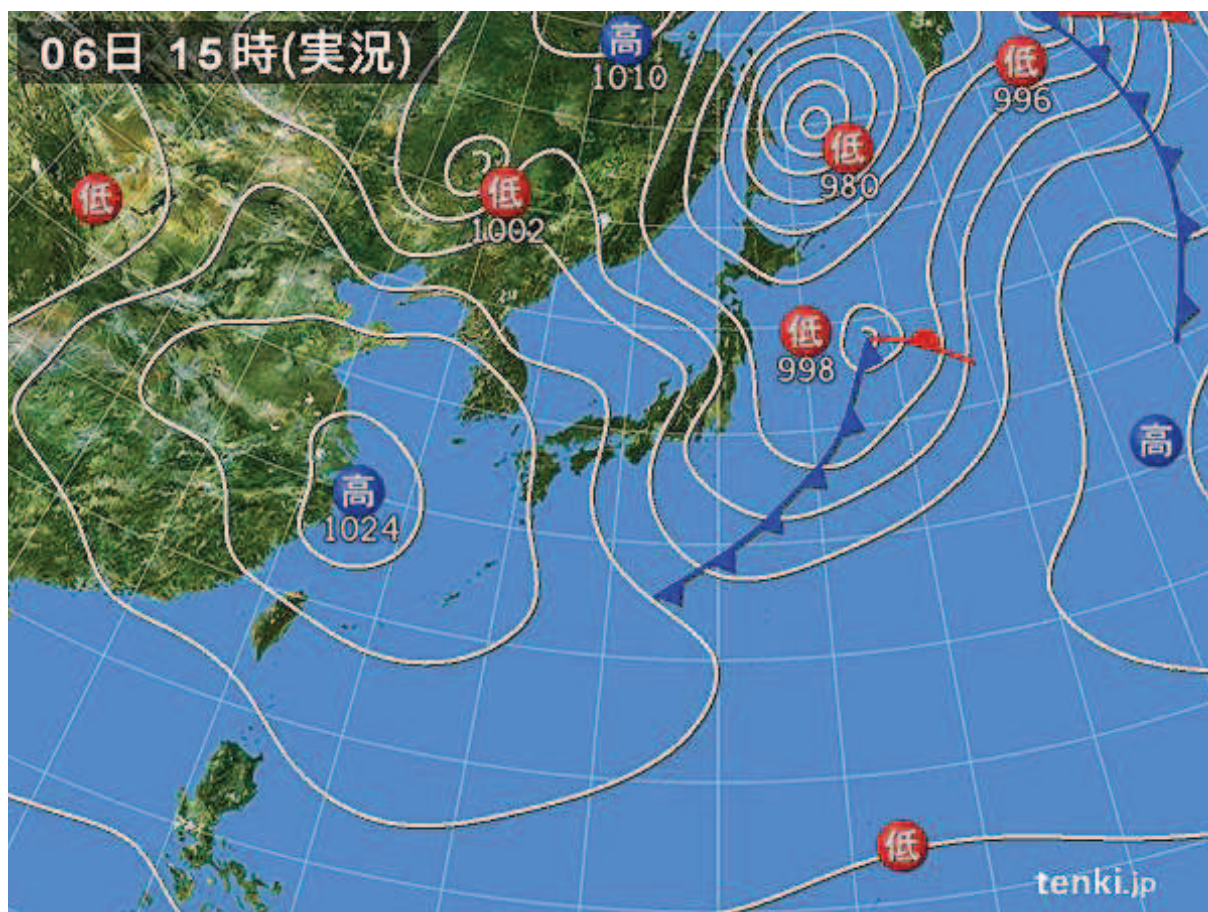
日最高 気温(°C)	日最低 気温(°C)	日積算 降水量(mm)	日最大 風速(m/s)	日積算 日照時間(時)
7.0 (13:20)	-1.1 (23:40)	1.0	5.0 (14:10)	4.5

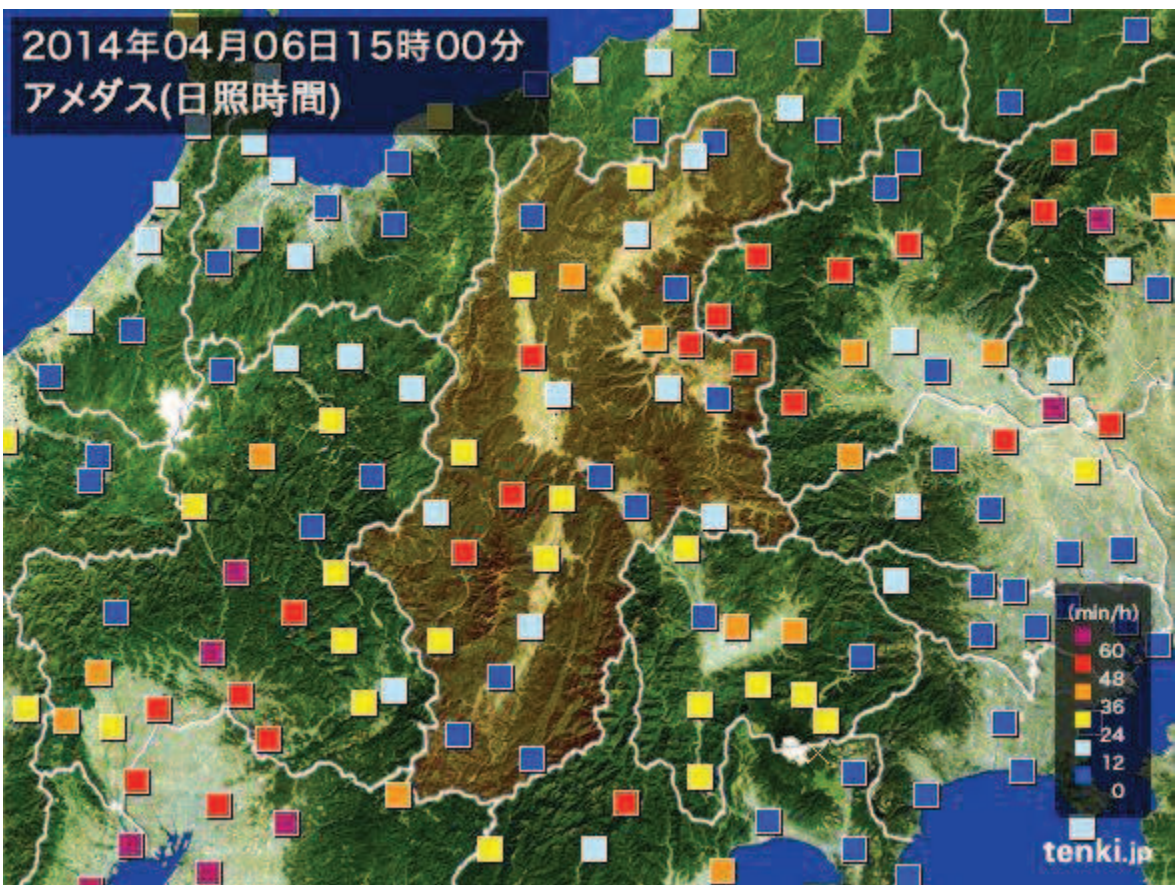
※日最高気温・日最低気温・日最大風速は、アメダス 10 分値です

60分観測値(2014年04月06日)

2014年04月06日

日時	気温(°C)	降水量(mm)	風向(16方位)	風速(m/s)	日照時間(分)	積雪深(cm)	
06日	24:00	-1.1	0.0	北	1.0	0	---
	23:00	0.0	0.0	北東	1.0	0	---
	22:00	0.0	0.0	北北東	2.0	0	---
	21:00	0.0	0.0	南東	3.0	0	---
	20:00	0.1	0.0	南南東	2.0	0	---
	19:00	0.6	0.0	東南東	2.0	0	---
	18:00	0.8	0.0	南西	2.0	0	---
	17:00	2.2	0.0	南	4.0	20	---
	16:00	4.3	0.0	南南東	3.0	56	---
	15:00	4.1	0.0	南	5.0	52	---
	14:00	4.3	0.0	南南西	3.0	36	---
	13:00	5.1	0.0	東南東	2.0	22	---
	12:00	6.3	0.0	南南西	3.0	16	---
11:00	5.9	0.0	西南西	2.0	34	---	
10:00	4.2	0.0	西南西	2.0	2	---	





遭難者・WHの実績：平成25年3月22日 入会

計画書届出山行：43回（会の訓練・合宿も含め15回同行者あり）

※単独山行を好み2,500m以上の山を選んでいる。※定例会や会主催の訓練・合宿にも意欲的に参加していた。

	山行日	県	山名	同行者
平成25年	3月23日	山梨県	八ヶ岳	
	3月30日	長野県	西穂高岳	(他1)
	4月14日	静岡県	沼津アルプス	
	4月27日	静岡県	鷲頭山(岩)/会訓練	(他9)
	5月2日～4日	長野県	燕岳・木曾駒ヶ岳	(他1)
	5月18日	長野県	乗鞍岳	
	5月25日	長野県	唐松岳	
	6月1日	長野県	焼岳	
	6月9日	静岡県	富士山	(他2)
	6月22日	山梨県	赤岳	
	6月23日	静岡県	富士山・幕岩/会訓練	(他17)
	7月7日	静岡県	愛鷹山(黒岳・越前岳・鋸岳・位牌岳)/会訓練	(他15)
	7月11日～14日	長野県	白馬岳	
	7月19日～20日	長野県	東天狗岳	
	7月28日	静岡県	沼津アルプス	
	8月3日～4日	長野県	小川山(岩)/会合宿	(他7)
	8月12日～18日	富山県・長野県	劔岳・奥穂高岳・北穂高岳・白馬岳	(他1)
	8月30日	山梨県	金峰山	
	9月14日	長野県	宝剣岳・木曾駒ヶ岳	
	9月20日～21日	山梨県	北岳	
	9月28日～29日	長野県	常念岳・蝶ヶ岳	
	10月12日～13日	長野県	涸沢岳	
	11月1日	東京都	雲取山	
	11月2日	埼玉県	両神山	
	11月10日	山梨県	大菩薩嶺	
	11月16日	山梨県	乾徳山	
	11月24日	静岡県	沼津アルプス	(他1)
	12月1日	静岡県	鷲頭山(岩)/会訓練	(他13)
	12月8日	静岡県	富士山/会訓練	(他9)

	山行日	県	山名	同行者
	12月20日～21日	山梨県	赤岳	
	12月30日	埼玉県	両神山	
	12月31日	東京都	雲取山	
平成26年	1月1日	山梨県	大菩薩嶺	
	1月2日	山梨県	乾徳山	
	1月3日	山梨県	金峰山	
	1月11日	静岡県	富士山・宝永山	
	1月19日	静岡県	富士山・二ツ塚	
	1月25日	長野県	北横岳	
	3月8日	長野県	御嶽山	(他1)
	3月16日	長野県	唐松岳	(他3)
	3月22日	長野県	阿弥陀岳・赤岳	
	4月5日	山梨県	金峰山	(他2)
	4月6日	長野県	御嶽山	(他2)

三島勤労者山岳会

静岡県駿東郡長泉町本宿 15-17

TEL 080-4582-3462